学校創立１４１周年

百年松

阿木名小中学校便り　令和２年６月１９日発行

◇ 校訓「かしこく　やさしく　たくましく」

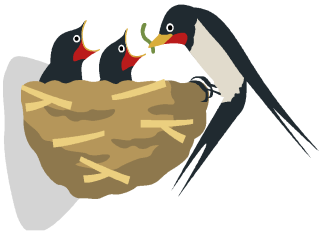
あ 明るく元気なあいさつができる子ども
ぎ ぎりぎりまであきらめず努力する子ども
な 仲よく笑顔いっぱいの子ども

～花いっぱい，元気いっぱい，笑顔あふれる阿木名っ子～

阿木名小中学校

タイミングをはかる

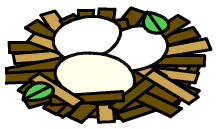
校長　川原　啓司



晴れ間の日差しはジリジリと肌に突き刺すように強く、奄美地方の梅雨明けもそろそろ聞かれそうです。これからの季節は熱中症予防のためにもお互いにこまめな水分補給を心がけていきましょう。

今月８日は町教育委員会の学校訪問があり、中村洋康教育長をはじめ教育委員や委員会関係者９名が訪問されました。約半日にわたり学校経営の説明や諸公募の閲覧、授業参観等を通して本校の現状や子どもたちの様子を見ていただきました。その後の意見交換では授業に臨む子どもたちの積極性、先生方の授業に対する真摯な態度、ＩＣＴ機器の効果的な活用、掲示物の充実など、多くのお褒めの言葉をいただきました。これらの言葉を糧に今後一層の改善充実を図っていきたいと思います。ご指導ありがとうございました。

さて、校庭の百年松には今年もカラスが巣をつくり、子ガラスの巣立ちの時期を迎えました。産卵後から巣立ちまでの時期は親カラスは卵やひなを守るために威嚇行動が増えると言われますので、不用意には近づきませんが、今月はじめには子カラスが羽ばたく練習をしており、その周りでは数匹のカラスが「ギャーギャー」とうるさいくらい賑やかに鳴いていました。ゴミを荒らしたり、農作物に被害を与えたりするためにあまり評判のよくないカラスですが、子ガラスが懸命に飛ぶ練習をしているのは応援したくなりました。また、自宅の屋根の庇につくられたツバメの巣からも一時期ヒナ鳥のかわいらしい鳴き声が聞こえていました。親鳥もせっせと餌を運ぶために飛び回っていましたが、いつのまにか巣立っていったようです。



ところで、禅の言葉に「啐啄同時」（そったくどうじ）というものがあります。「啐（そつ）」はヒナが内側からたまごの殻をつつくこと。「啄（たく）」は親鳥が外側から殻をつつくことを言います。両者が一致してヒナが生まれることから「絶好の好機、またとない好機」を表す言葉として使われます。これは鳥に限らず、人間の親子の関係でも大切なことです。子どもが興味・関心をもって自分から学びたい、やってみたいと一歩踏み出した時、そのタイミングを捉えて外から支援することが何よりも大切になってきます。子どもの心身の発達はそれぞれですから、その時期を見定めることは容易ではありませんが、日頃からしっかりと向き合うことができていれば自ずと見えてくるものと思います。それを信じてこれからも各家庭での子育てを頑張っていただくようお願いいたします。